

診療科紹介

Update

Vol.22



病理診断科

病理診断科について

患者さんの体より採取された病変の組織や細胞を顕微鏡で観察して診断するのが病理診断で、適切な治療のために大きな役割を果たします。当院は日本病理学会認定施設、日本臨床細胞学会教育研修認定施設に指定され、スタッフは日本病理学会専門医と日本臨床細胞学会専門医資格を有しています。

現在、病理診断科は3名の常勤病理医、2名の病理レジデント、5名の臨床検査技師（細胞検査士4名）で病理診断、病理解剖、臨床研究を行っています。主な病理の業務内容は（1）細胞診断、（2）生検組織診断、（3）手術で摘出された臓器・組織の診断、（4）手術中の迅速診断、（5）病理解剖、（6）臨床との合同カンファレンス、院内、医師会CPCの主催などです。

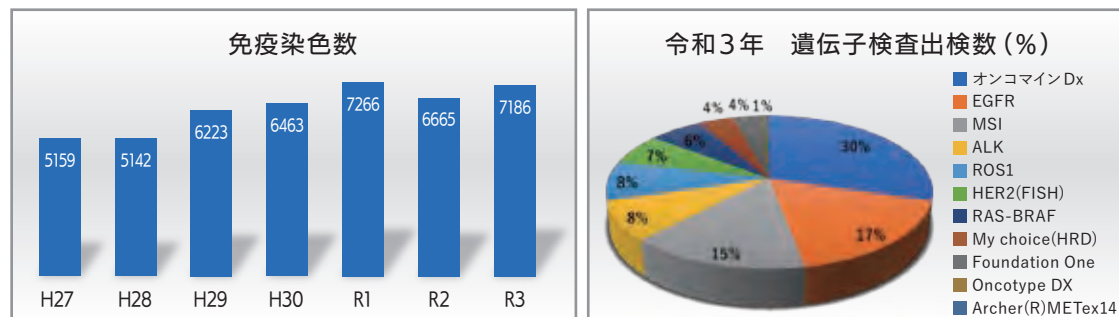
病理診断は最終診断として治療方針の決定に重要な役割を担っています。当院では細胞診、組織診とも全例複数の医師でダブルチェックを行い、診断精度の向上と良質な医療の提供を心がけています。

標本を顕微鏡で観察するのが、病理検査の中核的作業ですが、病理診断には判断が難しい症例が少なくありません。このような場合は国立がんセンター、日本病理学会、九州支部のコンサルテーションシステムなどに積極的にコンサルテーションを依頼しております。また、患者さんが他の施設から転院して来られる場合、病理診断がついていることがあります。そのような場合は、できる限り前の病院から標本をお借りし、当院で診断を確認するように努めています。また、患者さんが当院から他施設へ移られるときには、プレパレートをお貸しして次の施設での判断を仰ぐようにしています。

診断実績	組織診断	細胞診断	術中迅速診断
令和3年	5,488	6,095	334
令和2年	5,701	5,917	329
令和元年	5,978	6,157	313

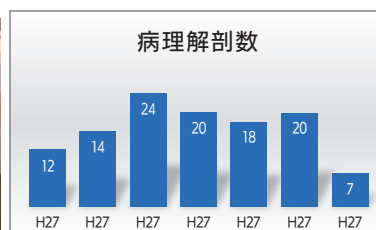
患者さんの治療法決定のために

近年はがん診療の発達で、病理検体を用いた生物製剤やホルモン受容体薬の選択の為に免疫染色検査やがんゲノムパネル検査を含む遺伝子検査が急増しています。これらの検査の大部分は自施設で実施され、迅速なデータの提供を実践しています。また、手術中に迅速組織診断を行い、病変の性状の診断や切除断端における評価を行い、手術方針の決定にも役立っています。がん診療検討会にも病理医が参加し、がん診療の重要な役割を担っています。



病理解剖とCPCについて

病理解剖は亡くなられた方の死因や病気の成り立ちを明らかにするために行われます。死体解剖保存法に基づき、病理解剖を行い、解剖所見、臨床経過、各種検査データを総合的に検討し、剖検診断を行います。全国的に減少傾向にある剖検は、本施設も新型コロナウイルス流行を受け、昨年の20体から減少しましたが、研修医教育を兼ねたCPC (ClinicoPathological Conference 臨床病理検討会) は例年通り年5回実施しています。病理解剖と院内CPCは重要な教育的意義を持っており、様々な科の担当臨床医、病理執刀医、そして直接症例に関与していない医療従事者が一堂に会し、発表・討論を通じて症例を共有するCPCは、全ての医師にとって重要な医療の質の検証の場となっています。



ISO15189認定検査施設

当病理診断科(及び臨床検査科)は、国際規格である「ISO 15189(臨床検査室-品質と能力に関する特定要求事項)」の認定を取得しています。九州の国立病院機構の病院で、ISO15189の認定を受けている病院は、九州医療センター、九州がんセンター、長崎医療センターの3病院のみです。要求事項に基づき、業務施行・管理運営・評価・教育等を行っており、病理検査試料を用いた遺伝子パネル検査などの次々と新規導入される検査法に耐えうる検査の質の確保に繋がっています。長崎県の中核病院としての役割を担う上で、医療の質の向上に寄与すべく、正確で迅速な診断を心掛け努めて参ります。